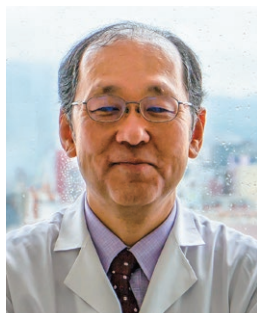


JBCT が支えるがん治療認定医制度

理事 藤原 俊義



今般の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に罹患された方々、ならびに治療に当たっておられる皆様に心よりお見舞い申し上げます。

一般社団法人日本がん治療認定医機構 (Japanese Board of Cancer Therapy: JBCT)は、2006年12月16日、日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会の3学会と全国がん(成人病)センター協議会の計4団体の連携による任意団体として設立されました。2007年から、がん治療認定医教育セミナーおよび認定医試験を実施し、「がん治療認定医制度」を推進してまいりました。2017年にJBCT「10年史」を発行いたしました。その中に掲載した「わが国におけるがん対策・専門医制度の歴史」の年表(<https://www.jbct.jp/about/history/tabid186.html>)は、1981年「悪性新生物が死亡原因の第1位となる」からスタートしています。そして今や、国民の2人に1人ががんに罹患し、3人に1人ががんで亡くなる時代であり、その間に本機構では約17,000人のがん治療認定医を認定してまいりました。その多くの方々は、全国各地のがん診療連携拠点病院や地域がん診療病院などに勤務し、がん医療の均霑化に貢献してこられています。

がん治療認定医制度の成果は、今まで多くの理事の先生方がJBCTニュースで触れてこられました。私は2012年から事務局担当理事として本機構と関わらせていただいておりますので、今回は本機構の運営について紹介させていただきます。本機構は珍しい組織体制で、構成学会・関連学会から推薦された理事と少数の事務局スタッフで運営されており、理事イコール実働となります。理事が委員長を務める資格審査委員会、教育委員会、財務委員会、関連学会連絡委員会、倫理委員会、広報・渉外委員会、国・医学会等関連委員会、がん関連患者団体連絡委員会、利益相反委員会の9つの委員会がそれぞれの役割を分担しておりますが、委員会によっては多くの先生方に協力いただいております。例えば、「教育委員会」では、教育セミナーの講師を務めテキストと認定医試験問題を作成いただく32名の先生方に委員とさせていただいており、さらにそのテキストと試験問題をチェックする「テキスト・試験問題専門部

会」、認定医更新のためのWeb試験問題を作成・チェックする「Web試験問題専門部会」など計120名以上の先生方にお世話になっております。幾重にもチェックが入ることで、幅広い知識と専門性が得られる質の高い教育システムとなっております。また、「関連学会連絡委員会」では、がんに関連する60の学会の代表に参加いただき、それぞれの学会の視点からがん医療についての意見を集約することで、専門医制度におけるがん領域の方向性などを検討しております。さらに、「資格審査委員会」では認定研修施設の審査やがん治療認定医の可否判定を行ったり、「広報・渉外委員会」ではこのJBCTニュースの発行で情報発信を行ったり、委員会ごとに重要な役割を担っております。

最も新しい10番目の委員会としては、2年半前に設置された「セミナー・試験準備運営委員会」があります。本機構の教育セミナー・認定医試験は長らく幕張メッセで開催され、運営のノウハウも確立されてきておりましたが、東京オリンピック・パラリンピックの影響で2018年からは幕張メッセが使用不可となりました。毎年約1,400名の受講者・受験者が一堂に会する会場はなかなか確保が難しく、委員会および事務局で検討した結果、2018年から3年間は大阪市南部にあるインテックス大阪で実施することとなりました。場所が変わると運営方法にも微調整が必要ですが、やっと慣れてきたところで2021年からは幕張メッセに戻る予定でありました。ただ、東京オリンピック・パラリンピックが1年延期となりましたので、2021年の開催地は未定であります。

がん医療の均霑化と国民から信頼できるがん治療医の育成を目的に、多くの熱意ある先生方の献身的なご努力で成長してきた「がん治療認定医制度」は、ゲノム医療や免疫療法など新たな分野を取り込みながらさらに進化していく必要があります。eラーニングなどを活用しながら、がん治療認定医制度がさらに多くのがん専門医を生み出し、社会に大きく貢献していくことを期待しております。最後に、本機構の円滑な運営とがん治療認定医制度の推進に尽力いただいている多忙な事務局スタッフに感謝申し上げます。

がん治療認定医総数

17,146名

がん治療認定医(歯科口腔外科)総数

540名

2020年4月1日現在

▼ 目次

JBCTが支えるがん治療認定医制度	1
2019年度認定医試験報告	2
2019年度認定医審査結果報告および 「認定研修施設審査基準」の制定について	2
セミナー聴講	2
役員一覧	2

2021年度よりがん治療認定医の更新手続きが変わります	3
各種料金改定について	3
2020年度教育セミナー・認定医試験概要	4
2020年度各種更新手続き予定	4
編集後記	4

2019 年度認定医試験報告

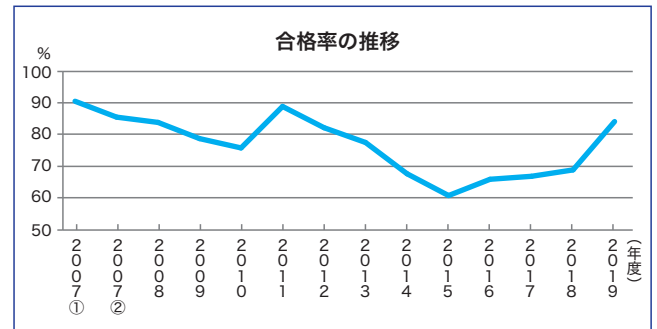
教育委員会
委員長 滝口 裕一



2019年11月10日に14回目のがん治療認定医試験が実施され、1,259名が受験しました。例年通りテキストの第I部（がん治療に求められる基盤的知識）と第II部（各種悪性疾患の診断と治療の基本原則）から1:1の問題数、配点でした。合格者は1,094名（医師1,043名、歯科医師51名）、合格率84.5%であり、平均点も46.9点（医師のみ47.4点、歯科医師のみ41.1点）とここ数年で最も優れておりました（図参照）。日常の診療でご多忙の中、このような好成績を達成された先生方の日頃の研鑽に深く敬意を表したいと思います。一方、緩和ケアに関する基本的な問題においては依然として正答率が低いものもあり、幅広い知識が必要であることが再認識されました。

本機構では試験問題の質の向上を図るため専門家も交え

て多面的な検証を行い品質管理の向上に努めています。受験者の皆様におかれましては、本認定医試験を今一度ご自身のがん治療に関する基盤的知識の点検の機会ととらえていただき奮ってのご参加を期待いたします。



2019 年度認定医審査結果報告および「認定研修施設審査基準」の制定について

資格審査委員会
委員長 檜山 英三



2007年度にがん治療認定医の審査開始から13年が経過し、2019年度は、978名の新規認定と、猶予を含め2,516名の更新認定（1回目882名、2回目1,634名）を行いました。また、審査合格率は新規、更新共に99%超で、本資格の申請手続は広く周知され円滑に審査が進んでいます。2020年3月末までの「緩和ケア研修会」受講修了必須化も進み、COVID-19流行のため研修会が受講できなかった一部の認定医を除き、ほとんどの認定医の受講が確認されました。がん治療認定医ががん治療に積極的に取り組み、本資格ががん治療に携わる医師、歯科医師としての幅広い知識と確固とした研修を受けた資格としてさらに洗練され、国民病であるがん患者治療の一旦を担うものになりつつあると

感じています。また、認定研修施設についても、指導体制、迅速病理診断や緩和医療体制に加え、相談支援、カンサーボード、医療安全などを加えて認定基準の見直しを行いました。認定施設は認定医の養成のみならず、認定施設そのものが時代に即したがん治療水準を満たすことにより、がん診療の発展と進歩を促して国民福祉へ寄与するという本機構の目指す方向に着実に進んでいるといえます。

2019 年度がん治療認定医審査結果	
新規合格者数	978 名
更新合格者数	2,516 名

セミナー聴講

医師・歯科医師に限らず、がん治療に関わる方を対象に、教育セミナーの聴講事業を行っております。定員は50名ですので、お早目にお申し込みください。（詳細は、<https://www.jbct.jp/admission>）

申込期間	2020年8月3日(月)～8月20日(木) (予定)
対象者	メディカルスタッフ、医薬情報担当者 (MR)、研究・開発担当者、医歯薬・医療系の大学生・大学院生・専門学校生、行政の担当者など
受講料	14,410円 (テキスト代含む・税込)

役員一覧

理事長 西山 正彦 (東札幌病院) **副理事長** 野田 哲生 (がん研究会がん研究所)、大江 裕一郎 (国立がん研究センター中央病院)
理事 青木 大輔 (慶應義塾大学)、井本 滋 (杏林大学)、滝口 裕一 (千葉大学)、藤 也寸志 (九州がんセンター)、中釜 斉 (国立がん研究センター)、西田 俊朗 (大阪病院)、西村 恭昌 (近畿大学)、野々村 祝夫 (大阪大学)、馬場 秀夫 (熊本大学)、張替 秀郎 (東北大学)、檜山 英三 (広島大学)、藤原 俊義 (岡山大学)、南 博信 (神戸大学)、森 正樹 (九州大学)
監事 中村 卓郎 (がん研究会がん研究所)、平岡 真寛 (日本赤十字社和歌山医療センター)

重要 2021年度より がん治療認定医の更新手続きが変わります

1. e-learning システムの導入

直近の教育セミナーの講義を、期間中いつでもどこでも学ぶことができます。

- 全 32 講義のうち、以下の (1) および (2) を修了した場合に、受講証明書を発行します。期限までに必ず修了してください。
- テキストの PDF は、各講義の Web サイト内に掲載します。冊子体の配布はありません。(必要な方は、別途ご購入ください。)

(1) 必須受講分野 (7 分野)

- 遺伝性腫瘍
- 画像診断学
- 外科治療学概論
- 化学療法概論
- 分子標的薬概論
- 免疫療法概論
- 放射線療法概論

各講義受講後
ミニテスト 5 問
全問正解必須

ミニテストは正誤問題です。全問プリントアウトすることが可能ですので、わからない問題があれば解答する前に再度 e-learning を受講して確認することができます。また、全問正解するまで何度でも受験できます。

(2) 選択受講分野 (6 分野の中から 3 分野を選択)

- がんの生物学・分子生物学
- 病理学
- 緩和医療特論
- 精神腫瘍学
- がん救急
- がんの診療と倫理

各講義受講後
ミニテスト 5 問
解答任意
(全問正解する必要はありません)

2. 更新手続きスケジュール

e-learning を長期間受講できるように、申込開始時期を前年度の 1 月からとします。

〈2021 年度更新の対象となる方〉

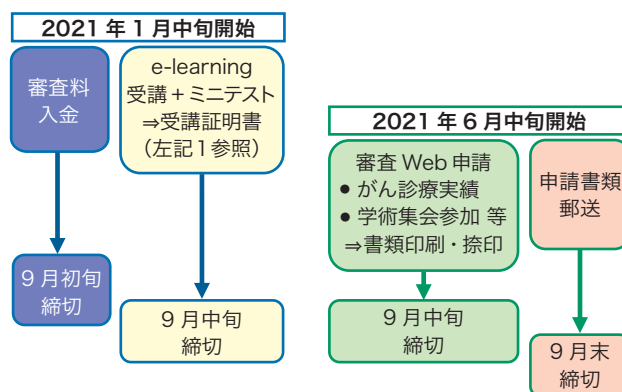
認定の有効期限日*が 2022 年 3 月 31 日の方 (更新猶予認定者除く)

*「認定証」またはホームページ内「変更届システム」より確認できます。
https://www.jbct.jp/sys_auth_listap/

〈スケジュール〉

2020 年 9 月中旬 更新のご案内郵送

注) 必ず更新資格の有無を確認してから e-learning の申込をしてください。e-learning 受講中または受講後に申請資格が不足していることが判明した場合でも、審査料は返金いたしません。



具体的な日程については、2020 年 9 月中旬に郵送する「更新のご案内」およびホームページで発表いたします。※現在実施している Web 試験は廃止となります。それ以外の申請資格 (診療実績、学会参加など) についてはホームページでご確認ください。

https://www.jbct.jp/renew/r_qualification2.html

各種料金改定について

財務委員会

委員長 大江 裕一郎



本機構では、教育セミナー・認定医試験の運営をはじめとする各事業の業務の合理化・省力化を図り、コストの抑制に努めてまいりましたが、昨今の消費増税、様々なコスト高騰により、2013 年度から 2019 年度まで継続してまいりました料金を維持するのが困難な状況となってきました。

そこで本年 6 月より、右表のとおり従来の消費税内税から外税へ全ての料金につきまして改定させていただきます。

ご理解のほどお願い申し上げます。

	料金名	料金 (税抜)	消費税 10%	料金 (税込)
1	更新審査料	10,000 円	1,000 円	11,000 円
2	受講料 + 受験料	23,000 円	2,300 円	25,300 円
3	受講料のみ	13,000 円	1,300 円	14,300 円
4	受験料のみ	13,000 円	1,300 円	14,300 円
5	認定料	20,000 円	2,000 円	22,000 円
6	事務手数料	100 円	10 円	110 円
7	テキスト料金	3,000 円	300 円	3,300 円

*2~4 については、すべてテキスト (冊子体) 料金含む

2020年度 教育セミナー・認定医試験概要

開催に関する詳細につきましては、HPをご確認ください。

開催日程

教育セミナー：11月21日(土)、22日(日)
認定医試験：11月22日(日) 13:00～
会場：インテックス大阪6号館Cゾーン

申込期間

7月1日(水)～8月6日(木)

本機構HPよりお申込のうえ、所定の金額をご入金ください。

費用

教育セミナーのみ 14,410円
認定医試験のみ 14,410円
セミナー・試験両方 25,410円

※いずれもテキスト代・事務手数料・消費税込



テキストは、9月中旬に送付いたします。
必ず事前に予習をしたうえで、受講・受験に臨んでください。

●教育セミナー 講義内容一覧

I：がん治療に求められる基盤的知識

1. がんの生物学・分子生物学 (土原 一哉・国立がん研究センター)
2. 遺伝性腫瘍 (横井 左奈・千葉県がんセンター)
3. 腫瘍免疫学 (北野 滋久・がん研究会有明病院)
4. がんの疫学・がん検診 (中山 富雄・国立がん研究センター)
5. 臨床研究と統計学 (水澤 純基・国立がん研究センター)
6. 病理学 (分子病理学を含む) (牛久 綾・東京大学)
7. 画像診断学 (遠藤 正浩・静岡がんセンター)
8. 外科治療学概論 (藤原 俊義・岡山大学)
9. 化学療法概論 (小野 麻紀子・がん研究会有明病院)
10. 分子標的薬概論 (林 秀敏・近畿大学)
11. 免疫療法概論 (各務 博・埼玉医科大学国際医療センター)
12. 放射線療法概論 (生島 仁史・徳島大学)
13. 緩和医療特論 (松本 禎久・国立がん研究センター東病院)
14. 精神腫瘍学 (サイコオンコロジー)
(和田 信・大阪国際がんセンター)
15. がん救急 (岡本 渉・広島大学)
16. がんの診療と倫理 (堀田 勝幸・岡山大学)

II：各種悪性疾患の診断と治療の基本原則

1. 脳腫瘍 (岩立 康男・千葉大学)
2. 頭頸部がん (丹生 健一・神戸大学)
3. 食道がん (竹内 裕也・浜松医科大学)
4. 胃がん (掛地 吉弘・神戸大学)
5. 大腸がん (佐竹 悠良・関西医科大学)
6. 肝がん (上嶋 一臣・近畿大学)
7. 胆道がん・膵がん (小田 竜也・筑波大学)
8. 肺がん (関 順彦・帝京大学)
9. 乳がん (高橋 将人・北海道がんセンター)
10. 婦人科がん (大石 徹郎・鳥取大学)
11. 骨・軟部腫瘍 (尾崎 敏文・岡山大学)
12. 泌尿器科腫瘍 (杉元 幹史・香川大学)
13. 皮膚がん (藤澤 康弘・筑波大学)
14. 白血病 (矢野 真吾・東京慈恵会医科大学)
15. 悪性リンパ腫・多発性骨髄腫 (池添 隆之・福島県立医科大学)
16. 小児がん (菱木 知郎・千葉大学)

がん治療認定医 がん治療認定医(歯科口腔外科) 2020年度 更新手続について

対象者

2016年4月1日付で認定または更新認定された方で、資格更新を希望される方

更新手続

対象者には個別に郵送にて通知いたしますので、更新資格を確認の上、ホームページより**6月10日～8月31日**の間にお申込ください。
(詳細は、ホームページ「更新【2020年度】申込・申請手続」をご確認ください。)

〈参考〉2019年度更新状況

更新回数	2回目	1回目
更新率	87.95%	90.66%



更新WEBテストについて一旦、試験問題を印刷し、テキスト等で十分に自習したうえで、専用サイトより解答を行ってください。

認定研修施設

2020年度 更新手続・在籍報告について

更新手続

対象施設

2015年11月1日付で認定または更新認定された施設で、更新を希望される施設

更新手続

対象施設には施設長あてに個別に郵送にて「認定研修施設更新通知書」をお送りいたします。
(詳細は、ホームページ「認定研修施設更新申請」をご確認ください。)

在籍報告

対象施設

更新手続対象(上記)以外の施設

提出方法

対象施設には施設長あてに個別に郵送にて「認定研修施設在籍報告のお願い」をお送りいたします。
(詳細は、ホームページ「認定研修施設在籍報告書」をご確認ください。)



新たに「審査基準」が制定されました。ホームページをご確認の上、更新手続または在籍報告を行ってください。
<https://www.jbct.jp/facilities/qualification.html>



編集後記

このたび、JBCT ニュース第7号を発刊いたしました。本来、JBCT ニュースの記事紹介、本機構の事業紹介などをこの編集後記でさせていただくのですが、本号をお読みになっただけの先生の方々が、本来のがん診療に加えコロナウイルス感染症診療にかかわっていらっしゃるものと思います。このような特殊な、緊張感と不安があふれる状況の中で、ご自身が出来る診療に粛々とそしてひたむきに注力されている先生方に深く敬意を表します。一刻も早くこの感染症が終息し、先生方がこれまでの専門診療に戻る時期が来ることを、そして何より先生方がお元気で診療を続けられることを、心よりお祈り申し上げます。

(広報・編集委員会委員長 張替秀郎)